付録-５　詳細点検報告書作成要領（案）

目　次

１．詳細点検報告書作成要領
１）詳細点検調書(その１)　総合検査結果……1
２）詳細点検調書(その２)　施設状況図・位置記号……3
３）詳細点検調書(その３)　現地状況写真……4
４）詳細点検調書(その４)　損傷図（構造物）……5
５）詳細点検調書(その５)　損傷図（路面・排水施設）……7
６）詳細点検調書(その６)　損傷図（附属物・その他）……8
７）詳細点検調書(その７)　損傷状況写真……9
８）詳細点検調書(その８)　損傷結果一覧（構造物・路面・排水）……11
９）詳細点検調書(その９)　損傷結果一覧（附属物・その他）……13
10）詳細点検調書(その１０)　点検時現場処置記録……14
11）詳細点検調書(その１１)　第三者被害予防措置点検記録……15
12）詳細点検調書(その１２)　Ｅ判定会議調書……16
13）詳細調査調書(その１３)　損傷数量一覧表（石積・ブロック積擁壁）17
14）詳細調査調書(その１４)　損傷数量一覧表（コンクリート擁壁）……18

詳細点検調書（その１）　総合検査結果

・本市DBに記載されている番号を付記すること。

・擁壁上の道路幅員を記載する。

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工宮所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

・構造形式が複数ある場合は、全て記載する。（コンクリート擁壁において、構造形式が不明な場合はCo擁壁と記載する。）

詳細点検総合結果

点検の結果から、下記に示す損傷があった。それぞれについて、考えられる原因を述べる。

【擁壁①+擁壁②】

・まず、全体系の所見から表記すること

＜構造物＞

（原因）

・擁壁壁面Coに、鉛直方向主体の乾燥収縮によるものと推定されるひび割れが見られる。
・擁壁壁面Coに、ひび割れ箇所からの水の浸透によるものと思われる漏水・遊離石灰が見られる。
・擁壁天端の防護柵支柱基部に、支柱の腐食膨張によると推定される浮きが生じている。
・石積擁壁に、外力によると推定される、積石の割れを伴う鉛直方向のひび割れが生じている。
・石積擁壁天端コンクリートに、化粧モルタルの劣化によるものと思われるうき、剥離が見られる。

＜擁壁背面道路面及び擁壁前面地盤＞

・歩道インターロッキング舗装に初期段階の沈下等によるものと思われる路面の凹凸が見られる。

＜排水施設＞

・水抜きパイプに空き缶の押し込みによる目詰まりが生じている。

＜附属物＞

・防護柵に、車両衝突等外的要因によるものと思われる変形が見られる。

＜その他＞

・現在のところ損傷は見られない。

【総評】

・北●●は、逆T式擁壁と石積擁壁で構成された擁壁である。
・擁壁壁面Coの鉛直方向主体のひび割れは、乾燥収縮によるものと推定される。
・擁壁壁面Coの遊離石灰は、一部に錆汁が混入している。現時点では周囲に浮きは生じていないが、経過観察が必要である。
・防護柵支柱基部の浮きについては本点検で叩き落としを実施。
・石積部のひび割れは、偏土圧により生じた可能性がある。現状では変位・段差等は見られず、機能に支障は生じていないが、経過観察が必要である。
・化粧モルタルの剥離は、経年劣化が原因である。
・水抜きパイプに目詰まりが生じており、維持対応が必要である。

左記を踏まえて、全体の評価をコメントすること。

・損傷が生じている部位、状況を詳細に表現すること。
・損傷が生じるメカニズムを可能な限り表現すること。

・全体系における、各部位ごとの所見を述べること。

最終的な施設全体の健全度評価を「Ⅰ～Ⅳ」で記載すること

施設としての健全度評価
Ⅱ

詳細点検調書（その１）　総合検査結果

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	0.2m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

詳細点検総合結果

点検の結果から、下記に示す損傷があった。それぞれについて、考えられる原因を述べる。

【擁壁①】

・1ページ目「全体系」の作成に続き、擁壁①～②・・・と、各部ごとの調書作成を行う

＜擁壁本体＞

（原因）

・擁壁壁面部Coに、規則性がなく乾燥収縮によるものと思われるひび割れが見られる。

・擁壁壁面部Coに、ひび割れ箇所からの水の浸透によるものと思われる漏水・遊離石灰が見られる。

・擁壁天端の防護柵支柱基部に、支柱の腐食膨張によると推定される浮きが生じている。

＜擁壁背面道路面及び擁壁前面地盤＞

・歩道インターロッキング舗装に初期段階の沈下等によるものと思われる路面の凹凸が見られる。

＜排水施設＞

・防護柵に、車両衝突等外的要因によるものと思われる変形が見られる。

＜附属物＞

・防護柵に、車両衝突等外的要因によるものと思われる変形が見られる。

＜その他＞

・現在のところ損傷は見られない。

・損傷の種類で、直接通行機能に障害がなくても、損傷判定上、部位部材ごとで「Ⅲ」（e－ⅱやe－ⅲなど）判定が付されるものもあるため、損傷判定上、「Ⅲ」評価が生じたものについては、本調書内に必ず、コメントを残すこと。

詳細点検調書（その２）　施設状況図・位置記号													
管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°　○○′　○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°　○○′　○○.○″

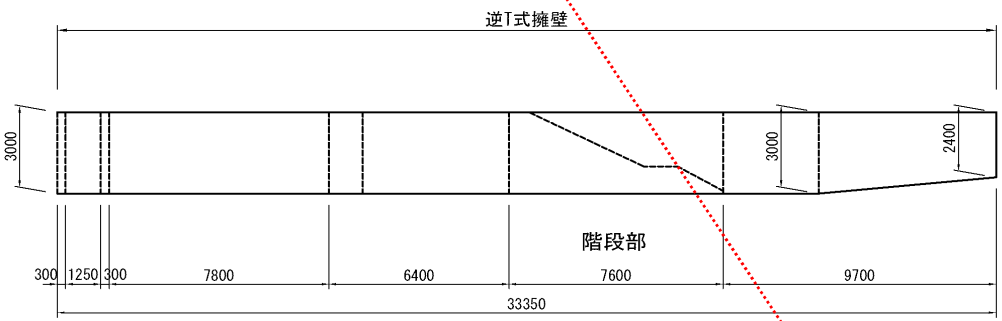
現況スケッチ（点検範囲の各施設の位置関係がわかるもの）

【擁壁①(逆T式)】

（東）
終点

展開図
（民地側）

（西）
起点



【位置図】

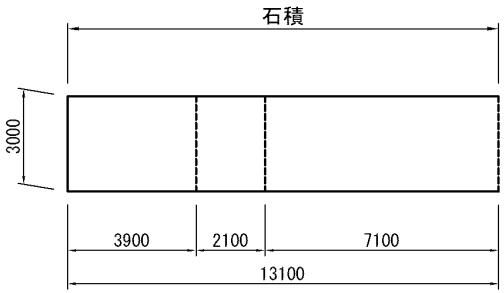
・「民地側」「道路側」の区別を記載する。
道路を支持する擁壁を対象としていることから、
擁壁前面側を「民地側」
擁壁背面側を「道路側」※壁高欄の道路側面等
とすること。

【擁壁②(石積)】

（東）
終点

展開図
（民地側）

（西）
起点



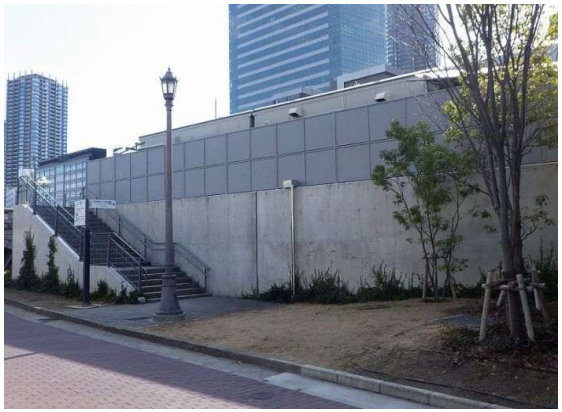
延長合計：46.450m

詳細点検調書（その３）　現地状況写真

・各擁壁単位で撮影する・

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

写真番号	1	写真番号	2	写真番号	3
位置記号	擁壁①	位置記号	擁壁①	位置記号	擁壁②
写真説明	全景写真	写真説明	全景写真	写真説明	全景写真
メモ		メモ		メモ	



写真番号	4	写真番号	5	写真番号	6
位置記号	擁壁②	位置記号	-	位置記号	-
写真説明	全景写真	写真説明	安全ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ	写真説明	交通誘導員配置状況
メモ		メモ		メモ	

詳細点検調書（その4）　損傷図（構造物）

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°　○○′　○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°　○○′　○○.○″

・ない場合は「無」を、ある場合は「ﾀｲﾙ貼」「塗装」「2重壁」など記載

損傷図（擁壁本体構造物）

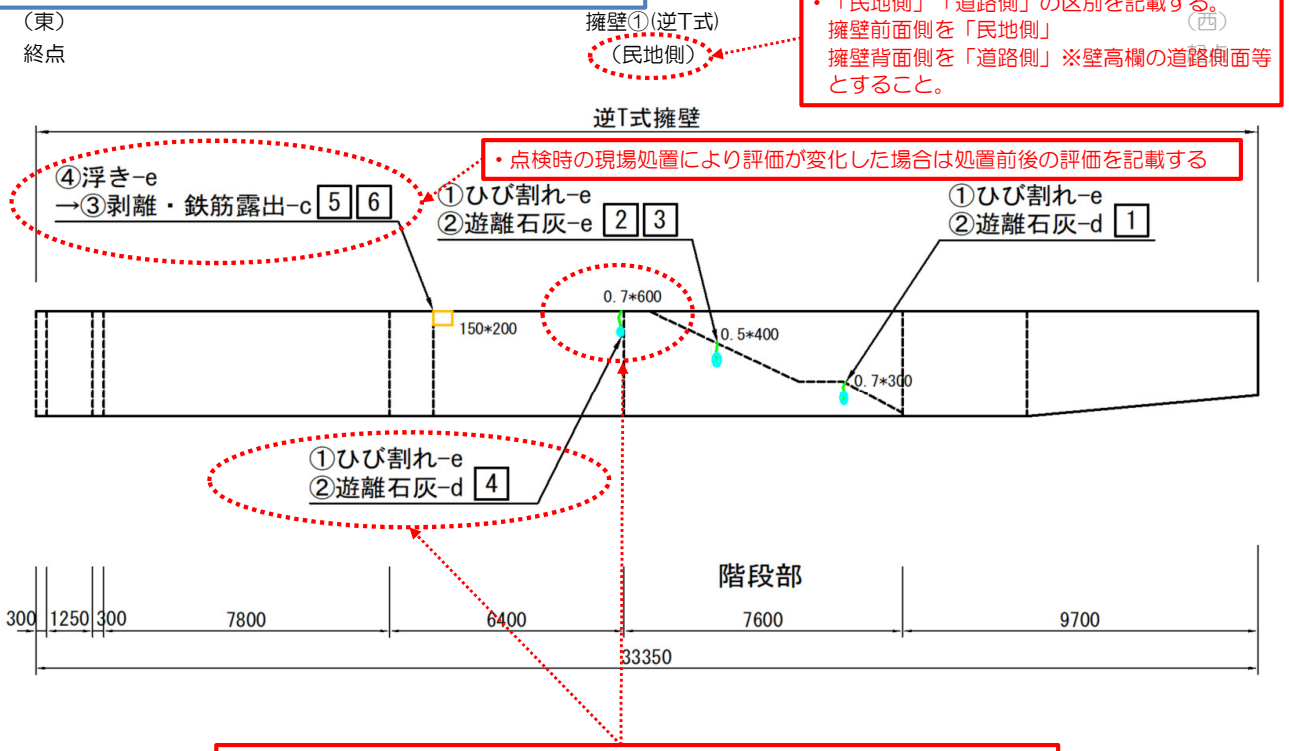
位置記号	擁壁①		仕上状況	無	特記事項	
部材名	壁面	0～33.35m	構造部材の視認性	可		

・部材名を記載する

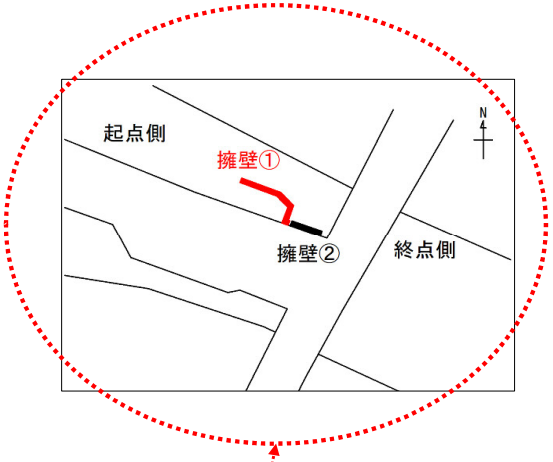
・例）被覆材等により部材を視認できない場合は、「ﾀｲﾙ張替時に状況を確認することが望ましい」などを記載

・損傷図に記載する場合は、必ず損傷写真が貼付されていること。
・あまりにも細かくなり、煩雑化する場合は、
同一損傷で括って、複数の写真番号を貼付するなど工夫すること。

・「民地側」「道路側」の区別を記載する。
擁壁前面側を「民地側」
擁壁背面側を「道路側」※壁高欄の道路側面等とすること。



・点検時の現場処置により評価が変化した場合は処置前後の評価を記載する



・各損傷図にはキープラン図を併記するのが望ましい

○　損傷の種類-判定
□　写真番号

・損傷図には、
a)損傷の種類(番号と損傷名)
b)損傷判定(a～e)
c)規模(幅、長さ、範囲など)
d)写真番号(1枚の写真に複数の損傷が撮影されている場合は全ての番号を記入)

凡例（コンクリート擁壁）

損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
①ひび割れ		②漏水・遊離石灰	
③剥離		③鉄筋露出	
④浮き		⑤欠損	
⑥傾斜・折損		⑦目地の開き、ずれ、段差	
⑧背面土砂の流出		⑨漏水（湧水）	
⑩目詰まり		⑪擁壁前面・背面の変状	
⑫その他			

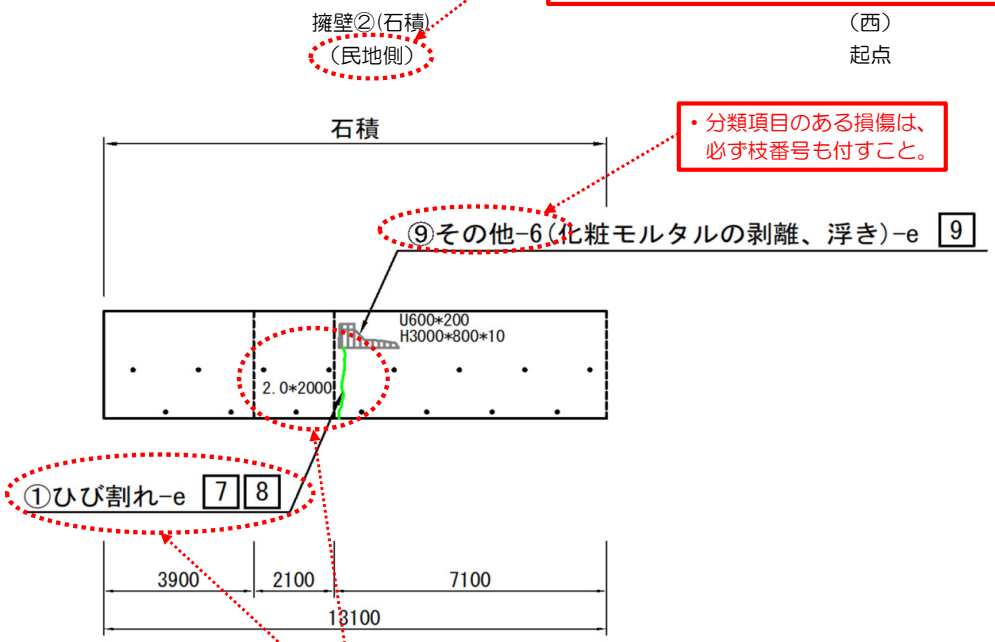
詳細点検調書（その４）　損傷図（構造物）

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°○○′○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°○○′○○.○″

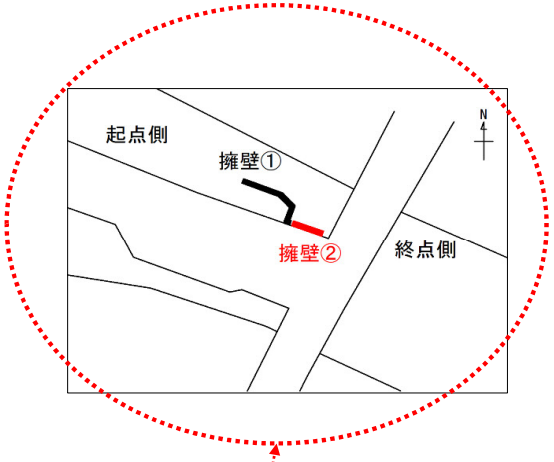
損傷図（擁壁本体構造物）

位置記号	擁壁②		仕上状況	Co(ﾓﾙﾀﾙ仕上)	特記事項	天端コンクリート部分のみ、モルタル仕上げ有
部材名	壁面	33.35～46.45m	構造部材の視認性	不可		仕上げ材を除去した際に状況を確認することが望ましい

・「民地側」「道路側」の区別を記載する。
擁壁前面側を「民地側」
擁壁背面側を「道路側」※壁高欄の道路側面等とすること。



・分類項目のある損傷は、必ず枝番号も付すこと。



・各損傷図にはキープラン図を併記するのが望ましい

○　損傷の種類-判定
□　写真番号

・損傷図には、
a)損傷の種類(番号と損傷名)
b)損傷判定(a～e)
c)規模(幅、長さ、範囲など)
d)写真番号(1枚の写真に複数の損傷が撮影されている場合は全ての番号を記入)

凡例（石積・ブロック積擁壁）

損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
①ひび割れ		②ふくらみ、抜け落ち	
③傾斜・折損		④目地の開き、ずれ、段差	
⑤背面土砂の流出		⑥漏水（湧水）	
⑦目詰まり		⑧擁壁前面・背面の変状	
⑨その他			

詳細点検調書（その５）　損傷図（路面・排水施設）													
管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

・部材名を記載する

損傷図（路面・排水施設）

位置記号	擁壁②		舗装種別	車道As・歩道ILB	特記事項	
部材名	路面	排水施設	構造部材の視認性	可		

・本調書には、「路面損傷図」と「排水施設損傷図」を分けて記載する

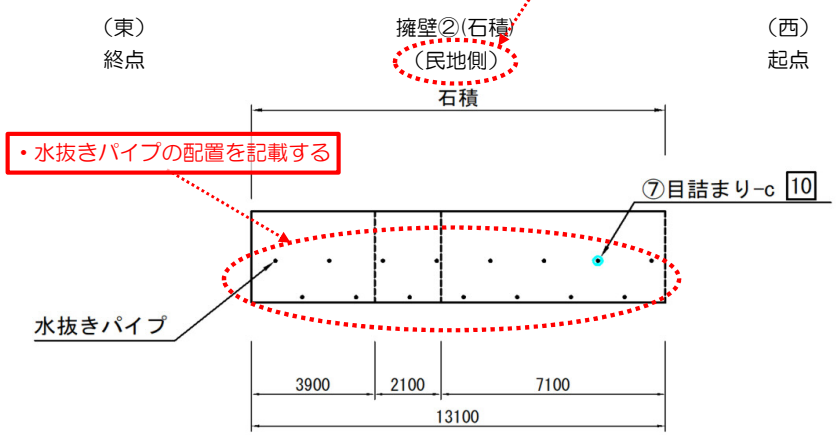
（1）路面損傷図

凡例（石積・ブロック積擁壁）

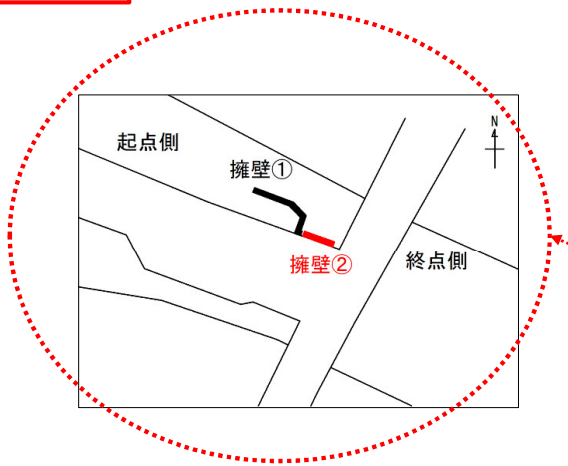
損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
①ひび割れ		②ふくらみ、抜け落ち	
③傾斜・折損		④目地の開き、ずれ、段差	
⑤背面土砂の流出		⑥漏水（湧水）	
⑦目詰まり		⑧擁壁前面・背面の変状	
⑨その他			

・「民地側」「道路側」の区別を記載する。
擁壁前面側を「民地側」
擁壁背面側を「道路側」※壁高欄の道路側面等とすること。

（2）排水施設損傷図



・水抜きパイプの配置を記載する



・各損傷図にはキープラン図を併記するのが望ましい

詳細点検調書（その6）　損傷図（附属物・その他）

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°　○○′　○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°　○○′　○○.○″

損傷図（附属物・その他）

位置記号	擁壁②	舗装種別	車道As・歩道ILB	特記事項
部材名	附属物	構造部材の視認性	可	

・部材名を記載する

凡例（石積・ブロック積擁壁）

損傷の種類	表示	損傷の種類	表示
①ひび割れ		②ふくらみ、抜け落ち	
③傾斜・折損		④目地の開き、ずれ、段差	
⑤背面土砂の流出		⑥漏水（湧水）	
⑦目詰まり		⑧擁壁前面・背面の変状	
⑨その他			

詳細点検調書（その７）　損傷状況写真													
管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

写真番号	1			写真番号	2			写真番号	3		
位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号	擁壁①	部材名	壁面
損傷種類	①、②	損傷評価	e、d	損傷種類	①、②	損傷評価	e、e	損傷種類	①、②	損傷評価	e、e
メモ	ひび割れ、遊離石灰			メモ	ひび割れ、遊離石灰			メモ	前写真の接写		

・１つの写真で複数の損傷を表現しているときは、すべてを表記する

・写真2のアップが写真3となっているが、必ず、写真番号は連番としておくこと。

写真番号	4			写真番号	5			写真番号	6		
位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号	擁壁①	部材名	壁面
損傷種類	①、②	損傷評価	e、d	損傷種類	④	損傷評価	e	損傷種類	③	損傷評価	c
メモ	ひび割れ、遊離石灰			メモ	浮き			メモ	剥離・鉄筋露出（前写真の叩き落とし後）		

・撮影時には、黒板を入れる方が望ましい

詳細点検調書（その7）　損傷状況写真

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

写真番号	7		
位置記号	擁壁②	部材名	壁面
損傷種類	①	損傷評価	e
メモ	ひび割れ		

・位置記号が変わる場合は、
できればページを変える方がよい。
それにより、空白番号が生じた場合は欠番とする。

写真番号	8		
位置記号	擁壁②	部材名	壁面
損傷種類	①	損傷評価	e
メモ	前写真の接写		

写真番号	9		
位置記号	擁壁②	部材名	壁面
損傷種類	⑨-6	損傷評価	e
メモ	その他（化粧モルタルの剥離、うき）		

・分類項目のある損傷は、
必ず枝番号も付すこと。

写真番号	10		
位置記号	擁壁②	部材名	排水施設
損傷種類	⑦	損傷評価	c
メモ	目詰まり		

・水抜きパイプの写真は全て撮影し、掲載すること。

写真番号	11		
位置記号	擁壁②	部材名	路面
損傷種類	⑧	損傷評価	d
メモ	擁壁前面・背面の変状		

写真番号	12		
位置記号	擁壁②	部材名	附属物
損傷種類	⑨-6	損傷評価	e
メモ	その他（ボルトの脱落）		

詳細点検調書（その８）　損傷結果一覧（構造物・路面・排水）

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

番号	位置記号	部材名	損傷番号	損傷部材	損傷種類	損傷評価	定量的値	要因（推定）	損傷情報	対応区分		
										緊急対応	補修対応	経過観察
1	擁壁①	壁面	①	Co	ひび割れ	e	0.7　×　300	乾燥収縮	防護柵支柱基部の箱抜き箇所に生じたひび割れであり、乾燥収縮によるものと推定される。			iii
2	擁壁①	壁面	②	Co	遊離石灰	d	50　×　200	水の浸透	防護柵支柱基部の箱抜き箇所に遊離石灰が見られる。			iii
3	擁壁①	壁面	①	Co	ひび割れ	e	0.5　×　400	乾燥収縮	防護柵支柱基部の箱抜き箇所に生じたひび割れであり、乾燥収縮によるものと推定される。			iii
4	擁壁①	壁面	②	Co	遊離石灰	e	50　×　300	水の浸透	壁に遊離石灰が見られ、錆汁が混入している。			iii
5	擁壁①	壁面	①	Co	ひび割れ	e	0.7　×　600	乾燥収縮	防護柵支柱基部の箱抜き箇所に生じたひび割れであり、乾燥収縮によるものと推定される。			iii
6	擁壁①	壁面	②	Co	遊離石灰	d	50　×　400	水の浸透	壁に遊離石灰が見られる。			iii
7	擁壁①	壁面	③	Co	剥離・鉄筋露出	c	150　×　200	防護柵支柱の腐食膨張	防護柵支柱基部の壁躯体に剥離が生じている。			iii

・１つの写真で複数の損傷を表現しているときは、すべてを表記する
・これらと調書（その７）の記載が一致すること。

・対策判定が一目でわかるように記入

詳細点検調書（その８）　損傷結果一覧（構造物・路面・排水）

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°　○○′　○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°　○○′　○○.○″

番号	位置記号	部材名	損傷番号	損傷部材	損傷種類	損傷評価	定量的値	要因（推定）	損傷情報	対応区分		
										緊急対応	補修対応	経過観察
8	擁壁②	壁面	①	石積	ひび割れ	e	2.0　×　2000	偏土圧 経年劣化	石積にひび割れが発生しており、偏土圧により生じた可能性があるが、現状では変位・段差等は見られない。			iii
9	擁壁②	壁面	⑨-6	石積	その他（化粧モルタルの剥離、浮き）	e	600　×　200	経年劣化	化粧モルタルに浮きが生じている。			m
10	擁壁②	壁面	⑨-6	石積	その他（化粧モルタルの剥離、浮き）	e	3000　×　800	経年劣化	化粧モルタルに剥離が生じている。			m
11	擁壁②	排水施設	⑦	水抜きパイプ	目詰まり	c	1	外的要因	空き缶が挿入されており、目詰まりが生じている。			m
12	擁壁②	路面	⑧	擁壁背面道路	擁壁前面・背面の変状	d	200　×　300	施工不良	歩道インターロッキングブロックに局所的な沈下が見られる。			iii

・損傷の種類に分類項目が設定されている場合は枝番号として記入すること。

・前ページから位置記号が変われば、改ページを行う。

詳細点検調書（その９）　損傷結果一覧（附属物・その他）

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

番号	位置記号	部材名	損傷番号	損傷部材	損傷種類	損傷評価	定量的値	要因（推定）	損傷情報	対応区分		
										緊急対応	補修対応	経過観察
1	擁壁②	附属物	⑨-6	防護柵	その他（ボルトの脱落）	e	1	振動等	防護柵の連結ボルトが脱落している。			m

・対策判定が一目でわかるように記入

・本調書は付属物系に特化した調書であるので、（その８）の調書の留意事項を考慮の上、記入すること。

詳細点検調書（その１０）　点検時現場処置記録

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和〇年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	〇〇区△△町〇-△	起点側　緯度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	〇〇°〇〇′〇〇.〇″

写真番号	5			写真番号				写真番号			
位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号		部材名		位置記号		部材名	
損傷内容	コンクリート部材の浮き			損傷内容				損傷内容			
処置理由	打音検査で落下の恐れが考えられたため			処置理由				処置理由			
処置内容	点検ハンマーによる叩き落し			処置内容				処置内容			
申送事項				申送事項				申送事項			
＜処置前＞				＜処置前＞				＜処置前＞			
＜処置後＞				＜処置後＞				＜処置後＞			

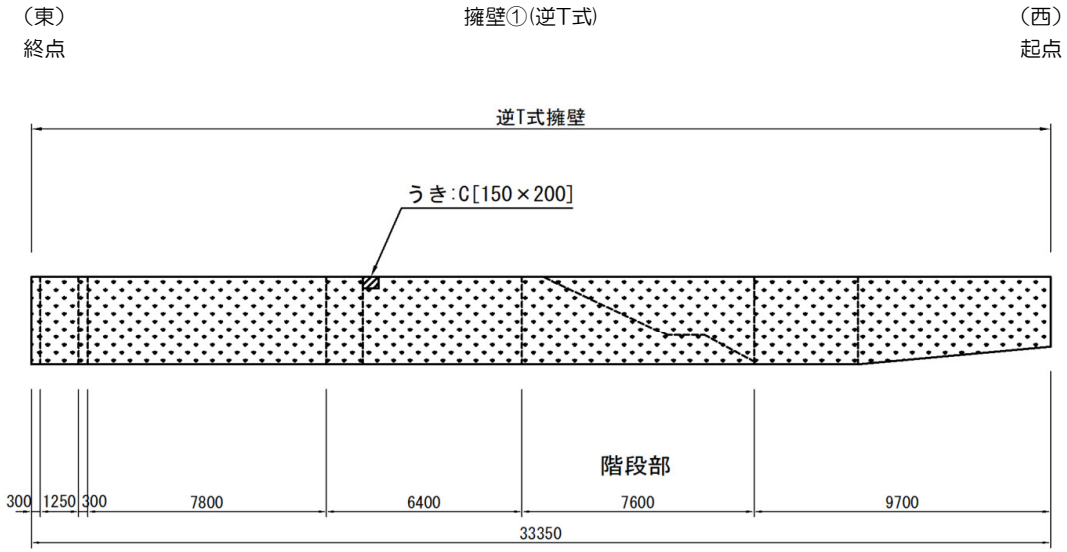
・写真番号は調書（その７）にて付された番号をそのまま踏襲する

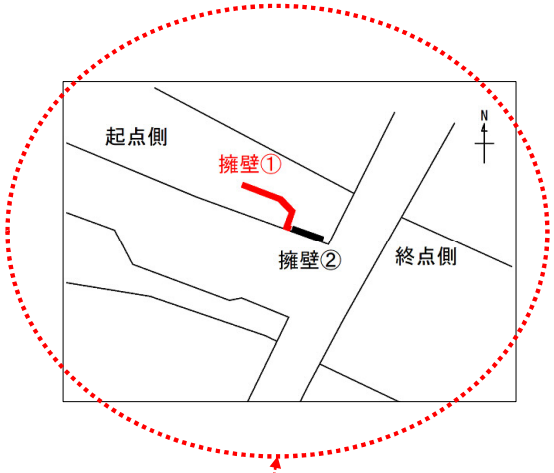
詳細点検調書（その１１）　第三者被害予防措置点検記録													
管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	2.5m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°　○○′　○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°　○○′　○○.○″

第三者被害予防措置点検記録

位置記号	擁壁①		仕上状況	無	特記事項	

・第3者被害予防措置に特化した調書であるので、
調書（その6）などの損傷図をアレンジして作成してもよい。





・部位が特定できるように
キープラン図を貼付すること

凡例

	遠望目視及び非破壊検査で異常なし（A1）
	打音検査清音部（A2）
	落下しなかった箇所（B）
	落下した箇所（C）
	打音検査不可能（P）
	既補修部（R）

詳細点検調書（その12）E判定会議調書

管理番号	Y-北-●●	施設名称	北●●	工営所	●●	路線名	●●●線			監督職員	●●●●	点検日	令和○年△月◇日
構造形式	逆T式 、石積	延長	46.45m	最大のり高	3.0m	幅員	0.2m	建設年	●●年	所在地	○○区△△町○-△	起点側　緯度	○○°　○○′　○○.○″
委託名	令和●●年度 道路施設点検調査等業務委託					業者名	●●コンサルタンツ㈱			点検者名	△△▲▲	起点側　経度	○○°　○○′　○○.○″

・上下でワンセットになるように貼付する。

前回点検結果				前回点検結果				前回点検結果			
写真番号	1			写真番号				写真番号			
位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号		部材名		位置記号		部材名	
損傷種類	①、②	損傷評価	e、d	損傷種類		損傷評価		損傷種類		損傷評価	
メモ	ひび割れ、遊離石灰	対策判定		メモ				メモ			

・本調書に掲載する損傷は、対策判定を検討することが前提となるため、損傷評価が「ｄ」「ｅ」のもののみ抽出すること

・前回写真は、前回調書（その７）の番号をそのまま踏襲する
・前回点検時に損傷がなく、新たに損傷が発見された場合は、前回点検結果欄は、空白でよい。

・前回の対策判定結果がわかるものは記入すること
・不明の場合は記入不要

・写真番号は、調書（その７）で付された番号をそのまま踏襲すること。

・本欄は、Ｅ判定会議開催時に対策判定を決定するので、会議後にフィードバックすること

今回点検結果				今回点検結果				今回点検結果			
写真番号	1			写真番号				写真番号			
位置記号	擁壁①	部材名	壁面	位置記号		部材名		位置記号		部材名	
損傷種類	①、②	損傷評価	e、d	損傷種類		損傷評価		損傷種類		損傷評価	
メモ	ひび割れ、遊離石灰	対策判定	eⅲ、dⅲ	メモ		対策判定		メモ		対策判定	

詳細点検調書（その13）損傷数量一覧表 （石積・ブロック積擁壁）

番号	位置記号	部材名	①ひび割れ（幅×延長）（mm）		②ふくらみ・抜け落ち（箇所）		③傾斜・折損（箇所）		④目地の開き・ずれ・段差（箇所）		⑤背面土砂の流出（箇所）	⑥漏水（湧水）（箇所）	⑦目詰まり（箇所）	⑧擁壁前面・背面の変状（箇所）		⑨その他（箇所）
			d	e	d	e	d	e	d	e	e	e	d	d	e	e
1	擁壁②	壁面		2.0 × 2000												
2	擁壁②	壁面														1
3	擁壁②	壁面														1
4	擁壁②	路面												1		
5	擁壁②	附属物														1

・d判定以上の変状について記載する。

・（その８）及び（その９）の調書に記載している定量的値とリンクさせること。

詳細点検調書（その14）損傷数量一覧表 （コンクリート擁壁）

番号	位置記号	部材名	①-1ひび割れ(幅×延長)(mm)(RC構造)		①-2ひび割れ(幅×延長)(mm)(PC構造)		②漏水・遊離石灰（m2）		③剥離・鉄筋露出（m2）		④浮き（m2）		⑤欠損（箇所）	⑥傾斜・折損（箇所）		⑦目地の開き・ずれ・段差(mm)		⑧背面土砂の流出（箇所）	⑨漏水(湧水)(箇所)	⑩目詰まり（箇所）	⑪擁壁前面・背面の変状（箇所）		⑫その他（箇所）
			0.2mm以上0.3mm未満	0.3mm以上	0.1mm以上0.2mm未満	0.2mm以上																	
			d	e	d	e	d	e	d	e	d	e	e	d	e	d	e	e	e	d	d	e	e
1	擁壁①	擁壁本体		0.7 × 300																			
2	擁壁①	擁壁本体					0.01																
3	擁壁①	擁壁本体		0.5 × 400																			
4	擁壁①	擁壁本体						0.015															
5	擁壁①	擁壁本体		0.7 × 600																			
6	擁壁①	擁壁本体					0.02																

・d判定以上の変状について記載する。

・（その８）及び（その９）の調書に記載している定量的値とリンクさせること。